

「サル山水合戦」 報告

2017 9/2・9/9



「サル山水合戦～首都大の竹を使って遊ぼう～」

9月9日（土）、本学南大沢キャンパスの体育館近くにある広場「サル山」にて、近隣の愛宕小学校の親子に参加してもらい、竹製の水鉄砲を使った水合戦を行いました。

この取組は、地域ボランティアプログラム参加2年目の学生たち（サポーター）が企画・立案したもので、大学の豊かな里山資源の利活用と異世代間交流を目的に実施しました。

当日は、地域ボランティアプログラムのメンバーが8名、愛宕小学校の親子が約20名、ひなた緑地遊学会（以下、遊学会）から6名の参加がありました。

・竹を使った水鉄砲づくり

水合戦を行う1週間前の9月2日（土）、13号館下の温室にて、当日子どもたちに遊んでもらうための水鉄砲づくりを行いました。事前に試作品をつくったメンバーや遊学会の方から、つくり方を教えていただき、竹を切る係、ピストンとシリンダーの組み合わせを考える係、キリで穴を開ける係、スポンジを巻いて完成させる係など、自分たちでうまく役割分担をしながら順調に作業が進みました。竹で水鉄砲をつくることは、ほとんどのメンバーが初めてで、工具を扱うことに慣れていないメンバーも多かったですが、2年目のサポーターや遊学会の方がうまくサポートしてくださり、30個ほどの水鉄砲をつくることができました。

参加した学生からは、以下のような感想が聞かれました。

- 竹を使った工作をすることが初めてで新鮮だった。自分がつくった水鉄砲が遠くまで飛んだら、とても嬉しかった。
- 竹にも太い・細い・曲がっている竹など個性があり、すべての竹を上手に同じように利用するのは難しいと思った。
- つくった水鉄砲が来週使えるか心配だが、自分の分かる範囲で子どもたちに教えたい。
- 新しいメンバーと出会えて、共同作業を通じて、メンバー同士の仲が深まった。
- やや準備の見通しが甘かった。企画を実行する上で大切なことを学べた。

学生たちは、竹を活用することの楽しさや楽しさを感じ、子どもたちに伝えることを意識しながら取り組んでいたようです。2年目のメンバーが初めてのメンバーをうまくサポートしていたことが印象的でした。最後には、遊び方のルールについても話し合いました。

・活動当日

当日、学生たちと遊学会のメンバーは、10時にサル山に集合。自分たちで作った水鉄砲の状態と、ゲームのルールとを確認しました。ゲームは2チームに分かれて行き、相手陣地に置いてあるフラッグを取れば勝利。ただし、水鉄砲で上半身を撃たれたら退場、というルールです。模擬戦を通して、「互いの陣地はもっと離れたほうがいいのではないか」「水の補給場所を考え直そう」などを話し合い、ルールの細かい調整を行いました。

11時、愛宕小学校の親子が到着。子どもたちも大人たちも「水鉄砲、早くやりたい！」と、元気に溢れていました。

赤・青・緑・黄色の4つのチームに分かれ、ゲームスタート。丘の上と野原に設けられた自陣に向かい、水鉄砲に水を詰めた後、相手のフラッグを目指して動きます。当日は快晴で、非常に蒸し暑かったにもかかわらず、子どもも大学生も大人も、縦横無尽に走りまわったり、水を掛け合ったりして、とても楽しそうに遊んでいました。企画が始まるまでは、「子どもたちが喜んでくれるだろうか」と、学生たちは少し緊張した様子でしたが、いざ始めてみると、子どもたちが明るい顔を見せてくれ、彼らも安心していました。

およそ1時間30分ほど水鉄砲で楽しんだ後、再び全員で集合して、今回の企画の感想を述べあいました。子どもたちからは「楽しかった！」、大学生からは「暑かったので、水が掛かるのが気持ちよかった」という感想をいただきました。最後に遊学会の代表の北出さんから、「こういった手作りの遊具を使って、広い場所で遊ぶ機会を子どもたちに提供できて良かった。今後、愛宕小学校だけでなく、もっといろいろな小学校ともこのような企画を行い、地域交流の輪を広げていけたら」という感想をいただきました。

最後に、子どもたちに水鉄砲をプレゼント。子どもたちは、自分好みの水鉄砲を選んだ後、受け取った水鉄砲ですぐに遊び始めていました。

タケノコ掘りの時に比べると少人数ではありましたが、「遊び」という関わり合い方のおかげで、彼らとの距離をグッと縮めることができた、素晴らしい企画だったと思います。



ひなた緑地遊学会の方に作り方を教えていただきながら水鉄砲をつくる様子



みんなで感想を述べ合った



今年度、地域ボランティアプログラムのリーダーを務めます、志村綱太と申します。地域ボランティアプログラムに昨年度より参加し、今回初めて学生が自主的に企画を行いました。実は私も子どもたちと同様に、竹の水鉄砲で遊んだ経験はなく、上手くいくかどうか不安もありました。ただ、私たちの想像を上回るほど、子どもたちが水鉄砲で楽しそうに遊んでくれたので良かったです。無事に楽しい時間を過ごせたのも、遊学会の皆様がサポートしてくださり、メンバーのみんなが臨機応変に役割を果たしてくれた結果だと思えます。今回のような異世代の交流をする活動を、今後も続けていきたいです。

地域ボランティアプログラム リーダー
理工学研究科 生命科学専攻 M1
志村 綱太